

金融スペシャリストがキャリア戦略を語る ～リスクに挑む姿勢が大切～

プロローグ（渡り歩いた氷河期からの教訓）

- 99 年、“金融危機”の中での転職。04 年、“暗い夜明け前”に独立。役立ったのは、いずれも前職で身に付けた事。その真価が問われる。年齢と共に、要求水準も高まる。
- “ギリシャ危機”の影響深刻化はこれから。海外勢との競争激化で強いられるコスト削減。終身雇用制は維持困難の可能性大。終わらない氷河期と雇用流動化を前提に、キャリア設計しよう！

⇒最盛期の 30 代前半までに、プロフェッショナルとしての“真の実力”（業務知識・スキル＋コミュニケーション能力）を身に付けよう！

以降は専門の幅を広げ、40 代前半までに“総合的な実践力”（マネジメント力、事業推進力 等）を。

1. 職業の実態と仕事の体験談 ～リスクに迫る面白さ～

- 金融プロフェッショナルは、銀行・証券・保険、運用機関、調査研究所の在籍者中心。時価会計の普及と共に、監査法人、企業財務へも進出。
- 銀行の職場は、営業店、本部の 2 種類。本部には、投資銀行、法人、リテール等の部門あり。投資銀行の中で、通貨オプション・為替ディーラー^{*)}、デリバティブ商品開発に携わる。それぞれ・・・
- 監査法人系コンサルへの転職後は、リスク管理、企業価値評価、財務管理と、仕事の幅を広げる。それぞれ・・・

⇒身に付けた事は、次の仕事でも役立つ。ぶち当たる壁は、クリアするまで形を変えて何度も現れる。努力と工夫の上、“二転三起”で突き破ろう！

2. 職業選びと就職に当たって ～壁から逃げるな！～

- 壁を突き破る毎に達成感が得られる職を選ぼう！
- 最初の壁（雑務）も、後々結構役立つ。しっかり丁寧にやろう！
- あるべき自分と天職は、最初からは無い。挑む壁の向こう側にある。避けて通りたい壁こそ、実は黄金の壁。

*) 外国為替分野の参考図書：

蜂須賀一誠 著（10 年 5 月刊行）『外国為替の基礎実務』（中央経済社）